

学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報
今月のトピック紹介版

11月号

第１回到達度評価問題結果から考える
小学校5年生算数　授業改善のポイント!

第１回到達度評価問題結果から考える
中学校１年生数学　授業改善のポイント!

全国学力・学習状況調査問題を活用した授業改善に向けて
～教科調査問題アーカイブを活用した授業づくり～

すべての子どもに「わかった」「できた」を！

第１回到達度評価問題の結果から考える 小学校５年生算数 授業改善のポイント！

西部教育局
お役立ち情報
令和８年１１月号

第１回到達度評価問題の結果において課題が見られた、小学校5年生算数「式の意味」の問題に関する授業改善のポイントについて御紹介します。今後の指導の参考にしてください。

第１回到達度評価問題

７　答えが、４.８÷０.８の式で求められる問題を、下のアからエまでの中からすべて選びましょう。
（完答）

ア　１mの重さが4.8kgの木のぼうがあります。
この木のぼう０.８mの重さは何kgですか。

イ　０.８Lでかべを4.8㎡ぬることができるペンキがあります。
このペンキ１Lでは、かべを何㎡ぬることができますか。

ウ　赤いテープの長さは4.8mです。
白いテープの長さは、赤いテープの長さの０.８倍です。
白いテープの長さは何mですか。

エ　長さが4.8mのリボンを０.８mずつ切っていきます。
０.８mのリボンは何本できますか。

（答え）＿＿＿＿＿＿＿＿

（平成３０年度全国学力・学習状況調査Ａ問題大問【２】を参考に作成）

正答のエを選択できた児童は多いが、比較量を求めるときの乗法と除法を混同してアを選択した児童の割合が多い傾向にある。

正答	イ、エ
誤答例	ア、イ、エ または ア、エ
県の正答率	１４.３％

【授業改善のポイントと活動例】

授業改善のポイント

関係図や数直線を用いて、数量関係を的確にとらえることができるようにする。

数の関係に目をつけて、わり算の式で求められる問題を選ぼう。

どのように考えたらいいでしょう。

エは「4.8mのリボンを0.8mずつ切っていく」とあるので、割り算です。

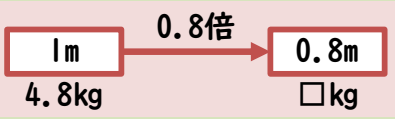
【展開例】アについて考える場面

アについてはどうですか。

アは、１mの重さが4.8kgの木のぼうの０.８m分の重さだから…。

数の関係が分かりにくいですね。分かりやすくする方法はありませんか。

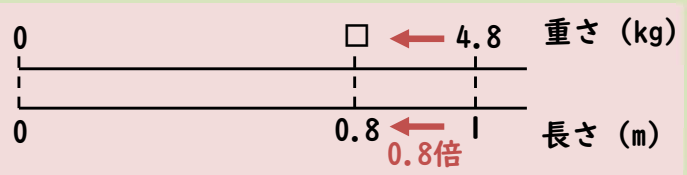
僕は関係図にかいて考えました。



なるほど！ 長さが0.8倍になると、重さも0.8倍になると考えられるから、アの式は「4.8×0.8」で、かけ算になるね。
関係図を使って考えると分かりやすいね。

アについて、関係図の他にはどんな方法があるでしょう。

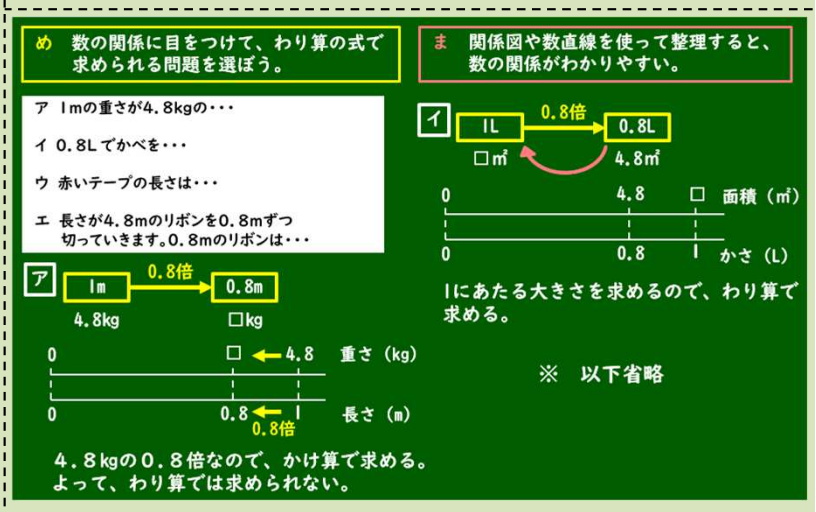
数直線にかいて整理する方法もあるよ。



１mの重さ4.8kgの0.8倍が□kgだから、やっぱりかけ算だね。

関係図や数直線を使って整理すると、２つの数の関係がよくわかるね。

イやウについても考えてみましょう。



すべての子どもに「わかった」「できた」を！

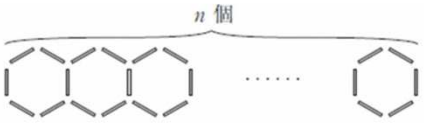
第１回到達度評価問題の結果から考える 中学校１年生数学 授業改善のポイント！

西部教育局
お役立ち情報
令和８年１１月号

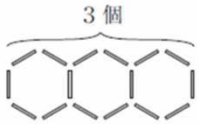
第１回の達度評価問題の結果において、課題の１つとして挙げられた中学校１年生数学「文字の式」の問題に関する授業改善のポイントについて御紹介します。今後の指導の参考にしてください。

第１回到達度評価問題

10 右の図のようにストローを並べて、六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数を考えます。

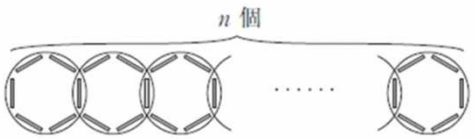


例えば、六角形を３個つくるのに必要なストローの本数は１６本です。



（２）図１のようにストローを囲むと、六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数は次のように説明できます。

図１



説明 ストローを図１のように囲むと、１つの囲みにストローが６本ある。その囲みがｎ個あるので、この囲みで数えたストローの本数は６ｎ本になる。このとき、２回数えているストローが［　　］本あるので、必要なストローの本数は６ｎ本より［　　］本少ない。

したがって、六角形をｎ個つくるのに必要なストローの本数を表す式は、

６ｎ－（［　　］）になる。

この説明の［　　］には、同じ式が当てはまります。□に当てはまる式を、ｎを用いて表しなさい。

（令和２９年度全国学力・学習状況調査大問３を参考に作成）

正答　$n-1$　　誤答例　n、$n+1$、$n-2$など　　県の正答率　１２．２％

数量の関係を文字式に表すことが難しい生徒が多い傾向にあります。数量の関係や法則を事象に即して解釈し、数学的に表現することができるようにするとともに、事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるように指導することが大切です。

【授業改善のポイントと活動例】

授業改善のポイント

図や実物を使って、具体的な場面から一般化するような活動を取り入れ、考え方のアウトプットを繰り返し行うことが大切です。

ストローの本数を数えるのに、どんな考え方ができるだろうか。



ストローの本数を数えるために、どのように考えたらいいかな。まずは右の図のように具体的な場面で考えてみよう。



実際にストローを並べながら考えてみるね。ｎ＝１の時は6本、ｎ=2のときは１１本、ｎ=3のときは１6本、ｎ=4のときは２１本だったよ。



合計の本数は求められましたね。
それぞれの場面で、変わっていく数量を、図形を囲みながら見つけてみましょう。



私は、六角形の個数から考えてみました。
１つの六角形にストローは6本必要です。
ｎの増加に合わせて6本ずつ増やしていき、重なった部分を引くことで合計を求めます。



増え方の規則を見つけられましたね。
どんな式で求められそうですか。

【関係を文字式で表すためのポイント】
・図に直接書き込みながら、具体的な場面での数量の関係（変化する数量、変化しない数量）を見つけ、それぞれの場合において、どんな式で表せるかを考える。
・具体的な場面で変化していく数量を、ｎとした場合にどのような式で表すことができるかを考える。

六角形なので本数は6本ずつ増えていき、重なっている部分は、六角形の個数より１つ少ないことが図からわかるよ。だから式は、6、6×2−１、6×3−2、6×4−3…のように書けそうだね。





では、その式を一般化して考えてみましょう。六角形がｎ個のときには、ｎを使って、どのような式で表せますか。

まず六角形の個数がｎ個なので、ストローの本数は6ｎで表せそうです。重なっている部分は、六角形の個数よりも１個少ないので、ｎ個のときは（ｎ−１）本と表せますね。よって合計の本数は、6ｎ−（ｎ−１）と表せます。



なるほど。具体的な場面から考えてみると、変化する数量がわかりやすかったよ。そこから文字ｎを使って一般化した場合について考えると、式に表しやすいね。



すべての子どもに「わかった」「できた」を！

全国学力・学習状況調査問題を活用した授業改善に向けて
～教科調査問題アーカイブを活用した授業づくり～

西部教育局
お役立ち情報
令和8年11月号

令和8年9月28日に国立教育政策研究所から全国学力・学習状況調査の過去の教科調査問題、正答例、解説資料、授業アイデア例等を閲覧できる「教科調査問題アーカイブ」が公開されました。
小・中学校を通じた各教科の資質・能力の育成に立った授業改善や研修・研究のために、ぜひ御活用ください。

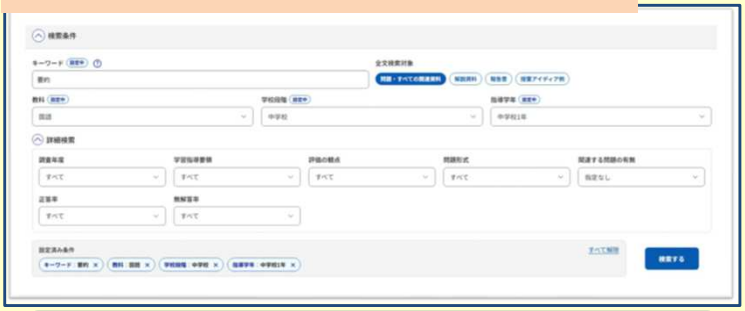


「教科調査問題アーカイブ」を活用した授業づくりのポイント【例】中学校国語

国語の読むことの「要約」を
どう指導したらよいのかなぁ？

教科調査問題アーカイブ
〈国立教育政策研究所〉

①「教科調査問題アーカイブ」で検索する。



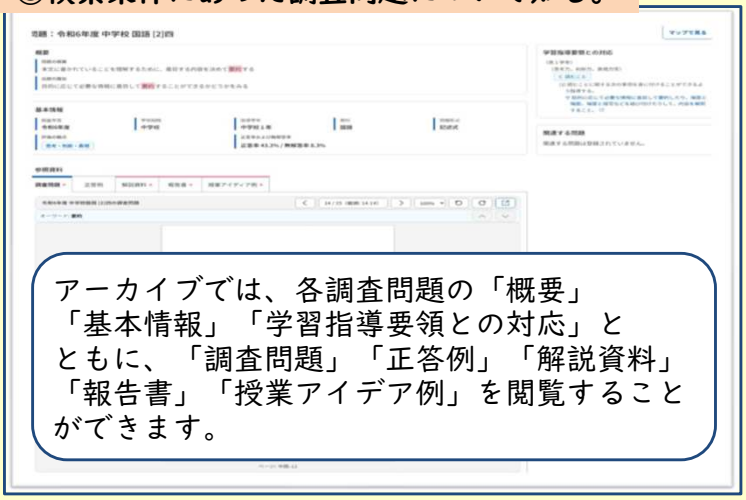
キーワード、教科、学校段階、指導学年等から、過去の資料を検索することができます。例えば「要約」「国語」「中学校」「中学校１年」で検索します。

②過去の調査問題や資料で該当するものを確認する。



令和３年度以降で、検索条件にあった調査問題が表示されます。キーワードで条件を検索すると、３つの調査問題が表示されます。

③検索条件にあった調査問題について知る。



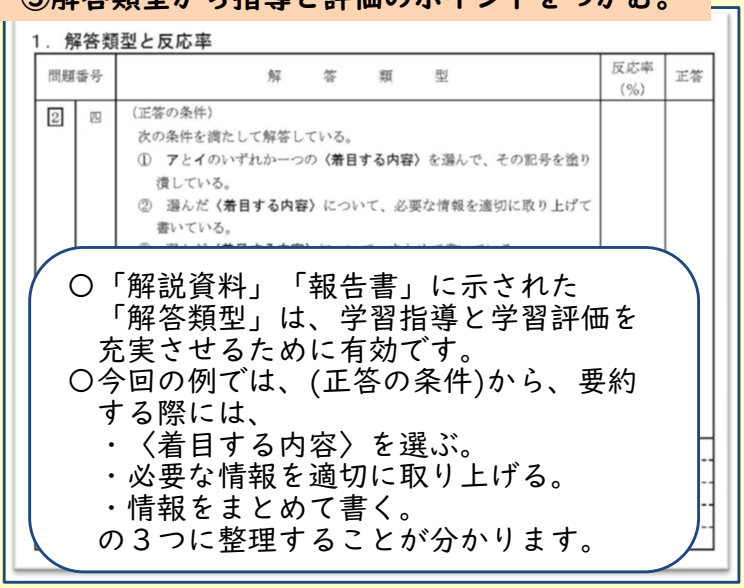
アーカイブでは、各調査問題の「概要」「基本情報」「学習指導要領との対応」とともに、「調査問題」「正答例」「解説資料」「報告書」「授業アイデア例」を閲覧することができます。

④調査問題・資料を見て学習指導のイメージをもつ。



指導者が「要約」に関する「調査問題」に実際に取り組むことで、必要な学習指導について具体的なイメージをもつことができます。また、「解説資料」「報告書」では、出題の趣旨や学習指導に当たってのポイント等を確認することができます。

⑤解答類型から指導と評価のポイントをつかむ。

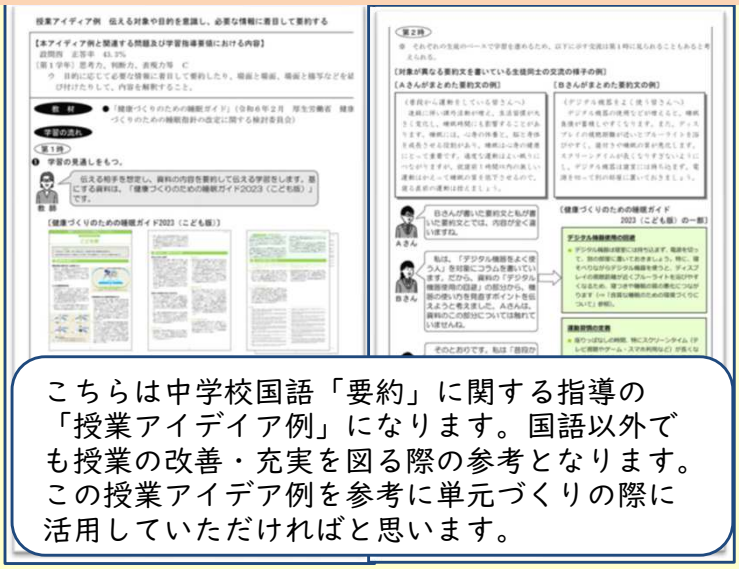


1．解答類型と反応率

問題番号		解答類型	反応率（%）	正答
2	四	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ① アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んで、その記号を塗り潰している。 ② 選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。		

○「解説資料」「報告書」に示された「解答類型」は、学習指導と学習評価を充実させるために有効です。
○今回の例では、(正答の条件)から、要約する際には、
・〈着目する内容〉を選ぶ。
・必要な情報を適切に取り上げる。
・情報をまとめて書く。
の３つに整理することが分かります。

⑥「授業アイディア例」で授業のイメージを明確にする。



こちらは中学校国語「要約」に関する指導の「授業アイデイア例」になります。国語以外でも授業の改善・充実を図る際の参考となります。この授業アイデア例を参考に単元づくりの際に活用していただければと思います。